

方小だより  
令和7年度  
校長室

# 笑顔いっぱい



## ♪金管バンド出演♪

9月15日(月)に方上公民館で開催されました敬老の日のお祝い会に、本校の金管バンド部が出演しました。コロナ禍で出演しなかった年がありましたが、去年、一昨年に続いての出演となりました。金管バンド部のメンバーは、夏休み中、そして、9月に入ってから朝の練習に励んできました。当日は、お祝い会でのオープニングで「ファンファーレ」「聖者の行進」「池の雨」の3曲の演奏をしました。6年生の児童が、あいさつや曲紹介をしました。精一杯、声を出して、お年寄りのみなさんに届くようがんばりました。これまで積み重ねてきた練習の成果が発揮された素敵な演奏でした。感想を聞くと、かなり緊張したようでしたが、人前で演奏することの喜びが感じられた表情でした。次の出番は、運動会です。広い運動場での演奏になりますので、さらに練習を重ね、皆様によりよい演奏が披露できるようにがんばってくれることと思います。



## カワニナ採集・放流

9月17日(水)、4年生が、総合的な学習の時間にホタルの幼虫のえさとなるカワニナを採集に行きました。毎年お世話になっている友愛会の方が2名来てくださって、一緒に採集に行ってくださいました。また、採集後には、教室でホタルに関することを教えていただきました。

22日(月)には、カワニナの放流に行きました。自分たちが放流したカワニナが、ホタルの幼虫のえさとなり、来年の夏にホタルに会えることを願いながら、前の週に採集したカワニナを川に放流しました。友愛会の方からは、集会所でゲンジボタルとヘイケボタルの違いなどを教えていただきました。自然がいっぱいの方上だからできる学習です。友愛会のみなさん、ありがとうございました。



～たくさんのカワニナを採集しました～



～放流の様子とホタルの話～

## 校歌について



朝会では、方上小学校の校歌を歌っています。1学期から放送委員会のみなさんが、校歌の歌い方について、姿勢や発声の仕方などのポイントを伝え、だんだんと素敵な歌声になってきています。9月16日(火)の朝会では、方上小学校の校歌について解説をしてくださいました。

現在の校歌は、1931年(昭和6年)当時、方上小学校の教員であった米沢実先生が、作詞作曲をしたもので、歌い継がれ、100年近くになります。校歌の1番の歌詞にあるように、校舎のとなりは水田で、秋には瑞穂の波のただよう中にある美しい田園学校だったそうです。また、2番には、「春に先立つ大谷の梅の香りのその如く」という歌詞が出てきますが、大谷の梅は有名で、梅の花が咲く頃には、大谷は花見客でにぎわっていたそうです。吉沢先生が大事に考えられているのは、2番の最後の歌詞です。「いよよはげまんもろともに」という歌詞には、「ますます勉強しよう。努力しよう。同級生、卒業生一同、手をたずさえ、はげまし合っていこう。」という願いがこめられています。そして、児童が楽しく歌うことができるように作られたそうです。放送委員会のみなさんの発表によって、校歌の歴史を知り、意味を知ることができました。全校児童が、方上小学校に通っていることに誇りをもち、校歌を歌うたびに、心をこめて歌うことにつながるように思います。

